

『真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで学習する生徒の育成』

～探求心をはぐくむ学習活動の推進～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 各教科研究による授業改善
- (2) 評価方法の改善
- (3) 初任者研修実習校の研究授業の実施
- (4) 一人一授業実践の実施
- (5) 新学習指導要領についての学習会
- (6) 新教育課程の研究

2 研究の概要（教科研究にかかわって）

(1) 思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成

① 思考・判断・表現などが必要になる課題解決的な学習の推進

学習形態等を工夫することにより、生徒同士が教え合ったり、学び合ったりする学習活動を通して、思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成を図る。

② 自分自身の生活との関係で考えたり、表現したりする授業の工夫

生活との関連の中で思考したり、判断したり、自分の考えや感情を表現したりするなど、学習と生活とのかかわりを重視した授業を推進することにより、学習に対する関心・意欲の向上を図る。

③ 発表や話し合いなどにより、学びの質を高める指導の工夫

生徒の実態に合ったグループ活動に適した課題の設定をし、自分の考えと他者の考えを比較検討するなかで、確かな学びとなるような授業を工夫する。

(2) 指導と評価の一体化を図り、フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着

① 生徒の発言やつまずきの分析をもとにした適切な支援

教師及び生徒相互の適切な支援により、基礎・基本の定着を図る。

② 評価内容及び評価方法の改善

学習内容や学習目標を明確にするとともに、相互評価や自己評価等を活用することにより、学習を振り返り自己学習力の育成を図る。

II 成果と課題

1 成果

- (1) 昨年の研究テーマを継続し、深化・発展させた研究授業や一人一授業実践を通して、多くの教科の授業を参観し、学びあえたことが有意義であった。
- (2) 中間評価が難しい教科があることなどから、通知カードを見直し、代わりにA・B・Cでは伝えられない評価について「評価コメント」を作成し三者懇談で伝えることができた。
- (3) 思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成を図るため、課題を持たせるための導入の工夫や生活との関連・既習事項との関連を意識した授業が展開できた。
- (4) 生徒のグループ学習の形態が習慣づけられ、生徒同士の教え合いや学び合う授業が定着してきた。

2 課題

- (1) 今年度、新たに一人一授業実践を実施し授業を公開することで、授業展開を学びあえたが、2学期(10～12月)の計画で多くの行事とも重なり、授業公開に負担があり、実施時期・方法を改善する必要がある。
- (2) 評価方法の改善をしてきたが、今年度の取り組みに加えて、更に生徒保護者により良く伝わる評価について検討していく必要がある。

III 成果物

1 授業実践

(1) 初任者研修授業研修会

特別活動 「進路指導」

保健体育 「陸上競技」

道徳 4-(10)国際理解 「フィリピンの人々から学ぶ」

英語 Unit7 「カナダの学校」(疑問詞)

数学 図形の性質「二等辺三角形」

(2) 一人一授業実践

美術「あらわすかたち つたえるいろ」

技術家庭(技術)「金閣寺ガイドをつくろう」

数学 平面図形「作図の利用」 他

2 通知カード・評価コメント(全教科・全学年)

昨年度まで行っていた年4回の通知カードを学期末の2回とし、学期の中間評価を、教科ごと個別に評価する「評価コメント」を作成し、三者懇談等で伝える方法を取り入れた。(研究主任 奥山寿夫)